



からこかぎ

第4号 平成25年5月10日(金)発行

唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会
〒636-0247 奈良県磯城郡田原本町阪手 233-1 青垣生涯学習センター唐古・鍵考古学ミュージアム内
Tel 090-9257-3688 Email: karakokagijimukyoku@swan.ocn.ne.jp

(特別寄稿)

唐古・鍵遺跡の史跡整備について

田原本町企画財政室総合政策課

豆谷 和之

唐古・鍵遺跡については、平成11年1月27日に唐古池を含むその周辺約10haが国史跡指定を受けた直後から、田原本町によって公有化を進めてきました。国史跡としての保存を図るとともに、公園として活用していくためです。

指定地の公有化もほぼ終わりかけた平成21年度からは、一部盛土造成に着手するとともに、具体的に史跡整備を進めるため有識者などによる「田原本町唐古・鍵整備委員会」を設置し、検討してきました。唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会の代表も委員の一人として加わっていただき、多くのご意見をいただいております。そして、平成24年3月に、「唐古・鍵遺跡整備事業実施設計」が完成しました。この設計に基づいて、唐古・鍵遺跡の公園整備工事は進めています。

(仮称)唐古・鍵遺跡史跡公園は、国史跡という特色を生かし、弥生時代の「風景」の再現をめざすと同時に、弥生時代の「出来事」を体験・学習できる場となることを目指しています。

具体的には、弥生時代の「風景」の再現として、発掘調査の成果にもとづきムラを囲んでいた大溝(環濠)①や、当時の植生(草・木)②を復元します。遠景の山並みや周辺の田園風景が良い借景となり、散策や自然観察を楽しむことができます。なお、平成15年に大型建物跡を検出した唐古池西側③については、同じ時期の周辺遺構(穴や溝)も含め、復元方法を検討中です。

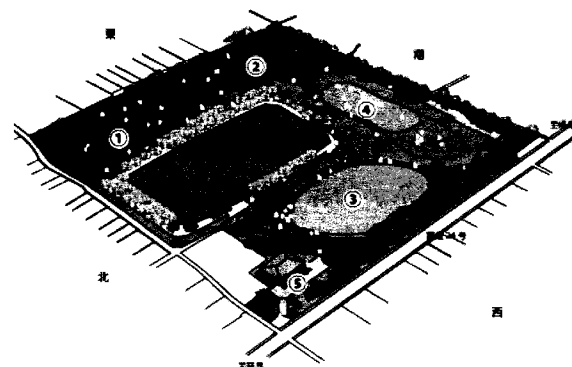
弥生時代の「出来事」を体験・学習できる場と

して、公園の南西側に野外活動・イベントを想定した広場④を設けます。土器野焼きや炊飯など、弥生時代のくらしを体験学習できるように考えています。広場の南側には、トイレやあずまやも併設します。

また、公園北西部の入口には遺構展示館⑤を設置し、国道西側で平成11年に検出した大型建物跡の柱穴を型取りした実寸模型を、発掘当時そのままに並べ展示します。また、唐古・鍵遺跡が学べるガイダンス施設としての機能も持たせます。

このように(仮称)唐古・鍵遺跡史跡公園は、みなさんの憩いの場になるとともに歴史・自然学習の場を提供し、また観光の拠点となるよう、平成30年の開園を目指しています。

田原本町では史跡地内で、整備途中の空地を活用し景観美化のため、コスモスの植栽を行っています。昨年は、唐古・鍵遺跡の保存と活用を支援する会の皆様のご協力により、楼閣をバックに美しいコスモスを咲かせることができました。今年も、ご協力をよろしくお願いいたします。



古代ものづくり教室から

—機織り体験（後編）—

山本 淳史

早いもので、もう4月ですね、夢多き新年度が始まりました。私たち古代ものづくり教室（考古体験教室）メンバーもこの教室のモットーである「遊び心と探究心」を、大きく羽ばたかせ西に一飛びしてみました。舞い降りたところは北摂地域に在る二つの遺跡です。茨木市の東奈良遺跡・文化財資料館（青銅器鋳型と小型銅鐸）と高槻市の今城塚古代資料館での特別展・安満遺跡（近畿地区の弥生時代の開幕を告げる遺跡）です。ガイドさんの話では「両遺跡とも弥生時代のロケーションは河内湖から淀川を少し遡ったところで最高の立地条件」とのことでした。この両遺跡とも展示遺物を見ると彩文土器や木の葉紋、そして銅鐸鋳型など、唐古鍵遺跡とは浅からぬ縁があったことを知りました。

さて古代ものづくり教室からは前回に続いて「機織り体験」の後編を報告します。前回会報では紡錘車で糸に撚りをかけたところで終わっています。これから先は複雑な工程ですが、経糸（たていと）を定められた順序で並べるための様々な道具があることがわかっていただければ幸いです。では、項目別に手順を説明します。

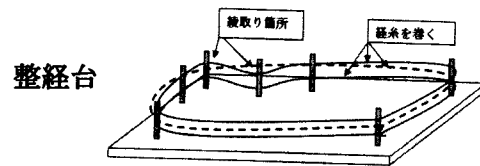
① 糸づくり

紡錘車の糸撚りの後は、いよいよ糸づくりの最終段階に入ります。紡錘車の撚り糸を栴（かせ）に巻き取ります。この状態で糸の撚りが戻らないように糊付けします。その後、この栴糸（かせいと）を糸巻きに巻き取ります。これで糸作りは完了です。

② 経糸の整経

栴糸が機織りの経糸として使用できるように、「長さを整え、糸が錯綜しないように整理し、上糸・下糸が交互に分かれるように綾（あや）を作る」、その道具が整経台（職人さんはヘイルと呼ん

でいます）です。板に数本の棒を立てた単純な構造ですが優れものです（イラスト参照）。私は区切りよく、上糸10本・下糸10本の20本をセットにして経糸をつくりました。この経糸20本が布幅1cmに相当します。今回の試し織りでは経糸200本を使用しました、つまり布幅は10cmです。同時にこの整経台で綾取り（職人さんはアゼヒライと呼んでいます）を2箇所します。この箇所は機織りに肝心のポイントなので綾がほどけないように糸で縛っておきます。この作業を10回繰り返し、経糸を固定する経巻具（職人さんはチキリ棒と呼んでいます）に各々両端を固定します。この時糸の“先”側が手元側になるようにセットします。これで経糸の段取りが終了しました。



③ 緯糸（よこいと）

緯糸に経糸と同じ糸を使ってはダメなことご存知ですか。私は、緯糸に栴糸を使って試してみました。緯糸と経糸の強さが同じだと、緯打ち具で幾度締めてもすぐに緩み、ついには経糸が負けて折れ曲がり、デコボコの粗い布が出来ました。「経糸は剛く直に、緯糸は靱やかに」これが布の基本だと再認識しました。緯糸は撚りかけ前の糸を緯越具（よここしぐ）に巻き取り、これを使用します。

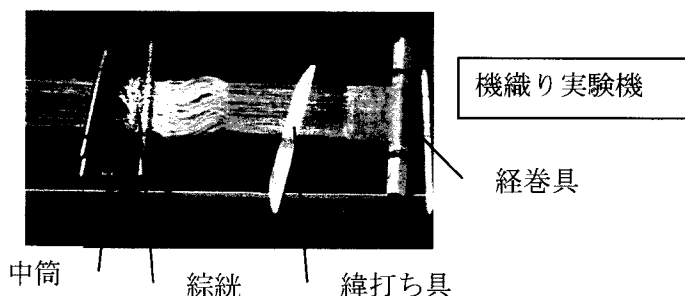
④ 機かけ（はたかけ）

整経台で作った2箇所の“綾”のうち1箇所を綜統（そうこう）を作ります。綜統は1本おきに経糸を持ち上げ、緯糸が通る開口を作る仕組みです。ここは繊細な作業です、順番を間違えないように神経を集中して経糸に糸を通します。機織りの根幹部分です。現代の高機でも同様の作業があります（職人さんは「もじり入れ」と呼んでいます）。もう片方の綾には開口用中筒を入れます。その後、

両端の固定部をハンモック状に吊るして適切な張りを経糸に与えてください。これで「機かけ」完了です。弥生時代の原始機（げんしはた）イラストでは、片方は立ち木、片方は女性の腰に括られて描かれています。

⑤機織り

それでは、機織りをしてみます。まず綜絛を持ち上げ経糸を上下に開きその開口部に「緯越し具」を通します。その緯糸を「緯打ち具」で締めます。つぎに中筒で経糸を上下に開きその開口部に「緯越し具」を通し、「緯打ち具」で緯糸を締めます。この繰り返しで布が織れます。この単純作業を繰り返すと、糸の毛羽立ちや糸切れが生じます。原料の善し悪しで大きく左右されるとのことですが、もし機織り挑戦されるならば、耳寄りな情報があります。月ヶ瀬保存会で教えていただいたことですが、「糸を乾燥させないように、常に適度な湿り気を与えること、これは糸切れ防止に役に立ちます。また、油を経糸に塗布すること、これは滑りと毛羽立ち、絡みを防止するためです」。ぜひ試してください。以上ですが、ミュージアムに展示されている精緻な布（幅1cm経糸26本）を見ると弥生人の技術の高さに驚かされます。単純に彼らには時間があつたから出来たとは、とても言えない出来栄えです、糸の性質を十分理解していたから出来た織物だと思います。その彼女たちが、イラストなどに書かれているように単純に経糸を一本の糸で連続して八の字書きで綾取りして機織りをしたとはとても考えられません。今後の織物関連遺物の出土で解明されることを期待しています。これで機織りは完結です。長文の不明朗な説明にお付き合い頂きありがとうございました。



ものづくり教室の開催予定

今年度上期のものづくり教室の予定は、次表のとおりです。原則として、毎月第2・4水曜日、午前10時より青垣生涯学習センターで会報記載の予定表に則り、開催いたします。

2階ボランティア室掲示板に連絡事項を記入してございます。また、具体的な連絡事項は、参加希望の会員には、はがき・メール等でお送りしております。ご希望の方は、事務局にご一報ください。

古代ものづくり予定表

月	日	曜日	内 容	備 考
4	10	水	東奈良遺跡と茨木市立文化財資料館	終了
	24	水	自由研究（木器加工・木器油塗布・ヒスイ・石斧・予定打ち合わせ）外	終了
5	8	水	勾玉教材づくり・ヒスイ勾玉づくり	
	22	水	総合学習支援・火織し道具補修	
6	12	水	国府遺跡見学	車
	26	水	苧麻刈り取り・苧引き（初瀬ダム）	車
7	10	水	弥生琴チャレンジ	
	24	水	蓼藍収穫・生葉叩き染	
8	14	水	「夏休みこどもチャレンジ」支援	予定
	21	水	土器制作の1週間前に土づくり	予定
	28	水	土器制作（4日間）	予定
9	11	水	奈良県立民俗博物館見学	車
	25	水	どんぐり（スタジイ）採取（馬見公）	車

◎ 本年度は、次の3点を重点に取り組みます。

- ① 総合学習支援活動用の新たなメニューづくりに取り組みます。
- ② 町外の博物館の見学等を積極的におこない、新たな技術の習得に努めます。
- ③ 昨年実施した古代木器製作・土器製作・石器製作・織物編物製作の習得に努めます。

第6回弥生勉強会に参加して

植田 洋高

3月31日(日)、予報より早く降り出した雨で参加される人数も心配されましたが、20人以上の参加者が集い、奈良盆地の南西部に位置する一町遺跡及びその周辺遺跡を訪れました。今回は、事前勉強会で確認した弥生後期の盆地内での高地性集落の動向と、弥生前期の初期農耕の定着過程に関心は高まりました。具体的には、一町遺跡に近接する複数の高地性集落及び第三回弥生勉強会で訪れた前期からの水田痕跡が見つかった中西・秋津・今出・京奈和自動車道関連遺跡より北東部に位置する曾我川流域の複数の弥生遺跡を探訪することができました。

橿原神宮前駅西口よりバスで丘陵上に新沢千塚古墳群がある地点まで移動しました。高地性集落の上ノ山遺跡は、一町遺跡の東丘陵に近接しており、後期前半期の土器の出土状況から相互の遺跡の密接な関連について説明を受けました。また、北方に位置する忌部山遺跡をはじめ千塚山遺跡、本馬丘遺跡など高地性集落が隣接している地域であることが確認できました。

藤田先生より奈良盆地南東部に位置する一町遺跡は、西に曾我川、東に丘陵に挟まれた扇状地に位置しており、その地理的な条件より環濠をもたない集落であり、以前に弥生勉強会で訪れた盆地北部の弥生拠点集落などに比べ、遺跡の規模等においては差異があるとの説明をいただきました。

昼食の吉祥草寺(役行者生誕地)に到着頃には、雨もあがりました。

南方に第三回弥生勉強会の解散地(玉手駅)が見えました。今回は京奈和自動車道の事前調査で新たに発見された遺跡確認のため、京奈和自動車道(橋下)沿いに北上しました。曾我川西岸流域においては、御所市が調査した茅原(ちはら)地区の後期水田址をはじめ、観音寺本馬遺跡・一町西遺跡・萩之本遺跡・宮ノ前遺跡・川西根成柿遺

跡など様々な遺跡が営まれたことが確認できました。連続的に分布しているため、非常に高い密度で各集落が分布していたようにも見えました。藤田先生より川西根成柿遺跡の説明があり、前期に環濠集落が形成され集落が拡大、その後は廃絶しているとのことでした。この遺跡のように前期から後期にかけて並存する遺跡はほとんどないのが実情らしいです。曾我川流域における弥生集落は、一時期に2から3遺跡程度が点在するような景観を呈していたと考えられます。曾我川から距離が近い遺跡のため、川の氾濫により集落がその都度新たな場所に移転したのではないのでしょうか。

曾我川流域における弥生時代集落については、従来一町遺跡が当該地の拠点集落であると考えられていましたが、一町遺跡の西側において京奈和自動車の事前調査において遺跡が次々に発見された。今後もっと西側に広がる平坦地においては、大規模な遺跡も発見されるのではないのでしょうか。

藤田先生、丁寧な説明ありがとうございました。

今回の弥生勉強会は、3月16日に考古学実践講座、3月23日事前勉強会にも参加でき有意義な探訪になりました。



追記 お酒の歴史について

(清酒の歴史)

清酒がいつの時代から造られ始めたかははっきりしません。水稻が渡来した弥生時代には、米こうじを使用した米の酒が造られたと推定されてい

ます。律令時代には稲作も安定し、国家の組織に造酒司（さけのつかさ）が設けられて米の酒が造られるようになりました。室町時代になると民間でも酒造りが盛んになってきました。16世紀後半になると精米した米を使用する諸白造りが始まり、もろみをこして清酒が透明となり、火入れと呼ばれる熱殺菌が行われたとする記録があり、現在の清酒造りの原型ができたと考えられます。

〔菩提酏〕日本清酒発祥之地・（奈良市菩提山町）

乳酸菌の作る乳酸を利用する技術で、15世紀頃に「菩提泉（ぼだいせん）」というお酒が造られていました。「菩提泉」は、奈良市近郊の菩提山正暦寺を中心に造られていたお酒です。紅葉の美しいこの寺院には、「日本酒発祥之地」の碑が立てられおり、清流もあって昔の酒造りについて思いをはせることができます。山の辺の道沿いから、立ち寄ることができます。

菩提泉の製法は、まず、白米を良く洗い、その白米の1割で飯を炊きます。その飯を残り9割の生の白米に埋めて水を加え3日ほど置くと、乳酸

菌が増殖し酸っぱくなり酵母も増えてぽつぽつ泡がみられるようになります。そこで、全体をザルでこし、生の白米は蒸米にして、麴、ザルこした酸っぱい水を混ぜて仕込みます。この酸っぱい水が重要でここに乳酸菌と酵母がいます。

発酵してできあがったものを飲む場合もありますが、これを酒母として使う場合を「菩提酏」と言います。正暦寺では、毎年1月になると奈良県内の12蔵が参加する「奈良県菩提酏研究会」が「菩提酏」を造り、これを「酒母」として持ち帰り各蔵元で「菩提酏純米酒」を製造して販売しています。

たわらもと2013発掘速報展

奈良盆地の開拓史

平成25年4月20日～5月26日（日）

会場：田原本町生涯学習センター2階会議室

観覧料：無料

開館時間：9時00分～17時00分

第7回弥生勉強会のご案内

—中曽跡とその周辺遺跡—

井上 知章

日時

○ 事前勉強会

5月25日（土）午前10時～12時

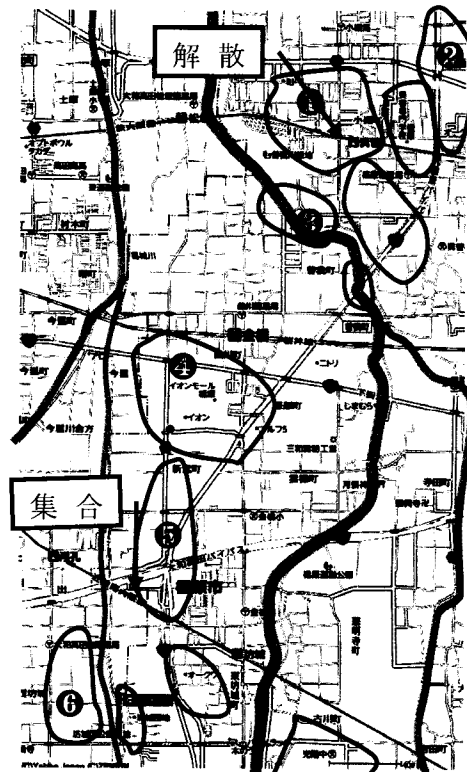
生涯学習センター2F ボランティア室

○ 現地遺跡見学会 6月2日（日）

午前10時～午後2時30分頃

近鉄大阪線浮孔駅 改札口集合（10時）

浮孔駅出発→ 西坊城遺跡⑥→ 坊城遺跡→ 東坊城遺跡→ 新堂遺跡⑤→ 曲川遺跡④→（昼食）西曾我遺跡③→ 曾我遺跡→ 土橋遺跡（大槻遺跡）②→ 中曽司遺跡①→ 真菅駅（解散）



墓（19基）、終末期～古墳期初頭（11基）が検出されており、それを裏付けています。

この検出された河川は、旧葛城川と評価され、河川堆積の砂礫の分析結果もそれを裏付けていると思われていました。しかし、近年の京奈和自動車道の建設に伴う事前調査では、調査区西側の一部を左岸とする旧河道（縄文晩期以降弥生中期まで存続）が検出され、砂礫分析結果は旧曾我川と結論付けられています。（県20次調査報告書）。

現地において、旧河川の流路を想定し、集落景観を確認したいと考えています。

4 京奈和自動車道関連で発見された遺跡・新堂遺跡、西坊城遺跡

京奈和自動車道築造に伴う事前調査で新たに発見された**新堂遺跡⑤**は、当初の遺跡範囲を見直され曲川遺跡に隣接しています。そこでは、縄文後・晩期、弥生時代後期後半から古墳期初頭の遺構や北流する旧河道が検出されています。特筆することは、曲川遺跡よりも遡る縄文後期後半（宮滝式期）の土坑や流路が検出されていることです。

また、新堂遺跡の南方1kmに位置する**西坊城遺跡⑥**は、古墳期を中心とした遺跡ですが、平成11年の第5次調査で縄文晩期初頭の土坑（土器棺墓）と土器溜りが検出されています。そこでは、弥生期の遺構・遺物が極端に少なく、縄文期の土器も、縄文晩期中葉を画す篠原式土器が中心であった曲川遺跡や観音寺・本馬遺跡と異なり、それ以前の滋賀里Ⅱ式土器が主流となっており、篠原式土器が極端に少ないとの調査報告があります。因みに、唐古・鍵考古学ミュージアムに展示してある突帯文土器は縄文最晩期の長原式土器です。一方では、この遺跡からは、香川県金山産サヌカイトの石器や長野県星ヶ塔産黒曜石の石鏃や大分県姫島産の黒曜石剥片の出土が報告されています。

奈良県では類例の少ない黒曜石の出土例や土器の編年から前回の弥生勉強会で確認した弥生前期段階の農耕痕跡が連続的に検出されるこの地域の縄文期から弥生期の集落の形成過程や縄文晩期の

他地域との流通過程を改めて考えてみたいと思っています。

5 追記

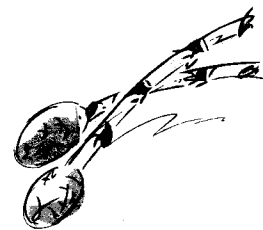
盆地内の弥生遺跡と地形の関係は、古くは唐古・鍵遺跡のバイブルともいべき「大和唐古弥生式遺跡の研究」（昭和16年京都帝國大學文學部考古學研究報告）に見られます。その第二章に唐古遺跡のみならず中曾司遺跡も含め盆地周縁から流入する土砂により埋め立てられた新成低地帯に属するとされています。

これは、考古地理学とも呼称されている分野の論議ですが、今回の訪問地は旧葛城川及び曾我川の流域に立地する遺跡でもあり、第7回弥生勉強会は、遺跡と地形という観点から現地を確認したいと考えています。

総合学習の支援について

昨年は、町内小学校5校の六年生312名に対し、唐古・鍵考古学ミュージアムの展示説明及び勾玉づくり、土器づくり、土器野焼き、火熾し、炊飯、脱穀等の支援活動を行い、さらに、町外の学校に対する支援活動も実施し、県内の私立小学校等の児童にミュージアムの説明や勾玉づくり等の支援を行いました。

今年度も引き続き、町内小学校等の総合学習科目（勾玉、火熾し、脱穀 土器づくり等）を支援します。



会 員 募 集

会の趣旨にご理解をお願いいたします。

ご参加をお待ちいたしております。

年会費 2000円

総合学習支援予定表

	日	曜日	小学校名	授業内容
4	12	金	田原本	ミュージアム見学
	23	火	北	ミュージアム見学・勾玉づくり
5	10	金	南	火熾し・炊飯
	22	水	南	勾玉づくり
	24	金	北	火熾し・炊飯・脱穀
	31	金	田原本	火熾し・炊飯
6	7	金	田原本	勾玉づくり
	13	木	田原本	土器づくり
	21	金	田原本	土器づくり
	28	金	平野	土器づくり
7	4	木	東	ミュージアム見学・勾玉づくり

定期総会報告

事務局

例年の通り、4月の第3土曜日（4月20日）に定期総会が開催されました。委任状を含め54名の会員の参加がありました。

前年度の活動報告、新年度事業運営方針、実施計画及び予算案が承認され、新役員が選任されました。概略をご報告いたします。

1 前年度の活動報告について（抄）

平成24年度総会で決定した活動方針及び実施計画に基づき、唐古・鍵遺跡の保存と活用に係わる活動をおこなった。特に、創立当初からの主要事業であった「総合学習支援活動」に加え、「古代ものづくり教室」及び「弥生勉強会」を積極的に実施した。また、会報を定期的に発行し、積極的な広報活動に努めた。

以上の活動により、平成24年度当初の会員数は37名であったが、8名の会員が新たに加わり平成25年3月31日現在45名となり、会員の減少傾向に歯止めがかかった。

2 今年度の事業運営について（抄）

唐古・鍵遺跡の保存と活用の支援に係わる諸活動の一層の充実を図るが、特に古代ものづくり教

室、弥生勉強会及び総合学習支援活動を重点事業として実施する。

3 予算・決算報告について

- ① 前年度決算は、積極的な事業活動の結果、収入・支出の部は何れも当初予算を超過したが、当初繰越金を大幅に超える決算となった。
- ② 今年度予算は、前年度執行額を踏まえて策定しており、収入面では、新規会員の増加を見込む、積極型の予算を策定した。

会長	梅野 満雄	
副会長	—	
運営委員	今西 和代	梅田 洋高
	川原 忠美	川端 優秀
	小林 新	竹村 正幹
	谷口 敬子	花坂 志郎
	福島 道昭	山本 淳史
	井上 知章（事務局兼務）	
	大森 初美（事務局兼務）	
	服部 文子（会計兼務）	
会計監査	池辺 繁昭	
アドバイザー	藤田 三郎	中尾 澄子

4 新年度役員について（上表参照）

新たに、花坂志郎さんが運営委員に選任されました。選出された運営委員全員は、諸活動を分担し、支援する会の事業の運営にあたります。

編集後記

- ・ からこかぎ4号をお送りいたします。今号は、横書きに修正しました。見やすくなったと思っただけだと有り難いです。
- ・ 昨年は、弥生勉強会及び考古体験教室を積極的に実施しました。会報には、そのご報告を掲載いたしました。次号にもご期待ください。

編集委員

井上知章 植田洋高 大森初美
谷口敬子 花坂志郎 福島道昭